

山行NO 山行NO. 1825-2
日時 2019.07.17日(水)
山域 雌阿寒岳(1499m・深田百名山)
コース 阿寒温泉5:07-七合目6:37-雌阿寒岳7:16-オンネト-登山口9:16-
湖畔道-阿寒温泉10:48-斜里岳移動
標高差 上り 阿寒温泉約710m~雌阿寒岳1499m=約789m
下り 雌阿寒岳1499m~オンネト-約640m=859m

青沼・赤沼を見に行く

雌阿寒岳は現役の活火山である。八合目付近からゴォーゴォーと噴煙の音が凄くて今にも噴火するんじゃないかと不安を感じた程である。今回は雄阿寒温泉コースから上りオンネトコースを辿る。雄阿寒温泉には昔2件の宿があったが、1件のお風呂で入浴中に硫化水素を吸い亡くなった。それで宿を閉めてしまった。今は1件のみです。と登山客から教えてもらった。野中温泉は現存しているが、もう1件は廃屋化していた。



無料駐車場は広い。きれいな立派なトイレもあり、此処で皆車中泊をしていた。大阪からきていたご夫婦は毎年3ヶ月位北海道を巡り歩くとか。

駐車場から少し下り⇒横看板をよく読んでから登山開始。火山の恐さと熊の顔の迫力にまける。ザックの鈴を確認し、木の根の張り出した赤エゾ松のスッキリとした林の中を森林浴をゆっくりと味わいながら歩く。

空は高く、曇り日和だが雨は感じられない。これなら阿寒富士までいけそうだ。小鳥のさえずりが



後押ししてくれた。駐車場にあんなに車があったのに誰も登ってこないのが不思議。だが、山はやっぱり静かに登れるのが一番いい。「こんにちは。こんにちは」と米つきバツタのように挨拶ばかりでは山に登っている感じが全くしない。



段々と足を高くあげるようになり高度を稼いでいく。三合目までくるとハイマツ一辺倒になり疎ましい道になる。そのうち火山礫の道になると辺りが垣間見れるようになり、上半身がせいせいとする。大きな岩をつかみ乗っ越すようにもなった。六合目辺りから火山礫の裸地状態。足元にはイワブクロが見事だ。



イワブクロ



メアカンキンバイ

今が満開とばかり咲き誇って見事な群生だ。花も素晴らしい。一つの花が塊となって瓦礫の上にあちこちと点在している。



メアカンフスマ（固有種）

8合目を過ぎる頃からガスが立ち込め始め、霧状の雨粒が全身にまとわりつく。CLは雨具を着こんだが、「私は相変わらず濡れて参ろう」だ。前髪はボンダラゲ状態で滴がしたたり落ちて目に入り煩わしいが、花には水滴がつき生き生きとした表情がとても美しい。とにかく「きれい！素晴らしい！」の一言である。



9合目辺りから、「ゴォー！ゴォォー！！！」と凄まじい轟音が耳に飛び込んできた。ガスで噴煙が溶け込み目で確認はできないが音が活火山と表明していた。奇岩の底から唸り声が鳴り響き、それは頂上通過まで聞こえた。晴れていれば噴気孔から、火口まで見えたに違いないがガスで見えないのがとっても残念だ。写真で見た素晴らしい火口から阿寒富士の全景を見たかったが・・・。又、来るしかないか・・・。





青沼（ネット写真）



赤沼（ネット写真）



オンネトー（右は阿寒富士）



頂上

頂上は雨と風で何も見えず、そそくさと退散。本来なら阿寒富士まで行く予定だったがこんなガスと霧雨では何も見えないと、オンネトーコースの標識に従って下山する。途中、瓦礫の上に露を含んだ可憐なコマクサを発見。



コマクサ

瓦礫を好むコマクサだが富士山にはない。地形も富士山とよく似たような感じなのにねえ・・・。
最後のイワブクロやその他の花を目で追いながら尚も下ると、背の高い樹林帯にかわる。小休止後、オンネトー登山口に到着。下界は晴天なり。立派な建物があり、ここで濡れた物を乾かし再び最初の温泉口まで約1時間足らず。



野中温泉・露天風呂

出だしは湖を回り込みながら歩くが、そのあと、何と樹林帯の中を登っていくのだ。暑いし、疲れているしエンヤコラと気合を入れなおして頑張った。

最後の最後、駐車場の見える手前が湿地帯で木道が続いていた。

「前にも落ちて皆にコケにされたけれど、まさか此処で落ちたりしないよねえ」と後ろを歩く CL に振り向いた拍子に身体のバランスを崩し、湿地帯の中に落ちてしまった。

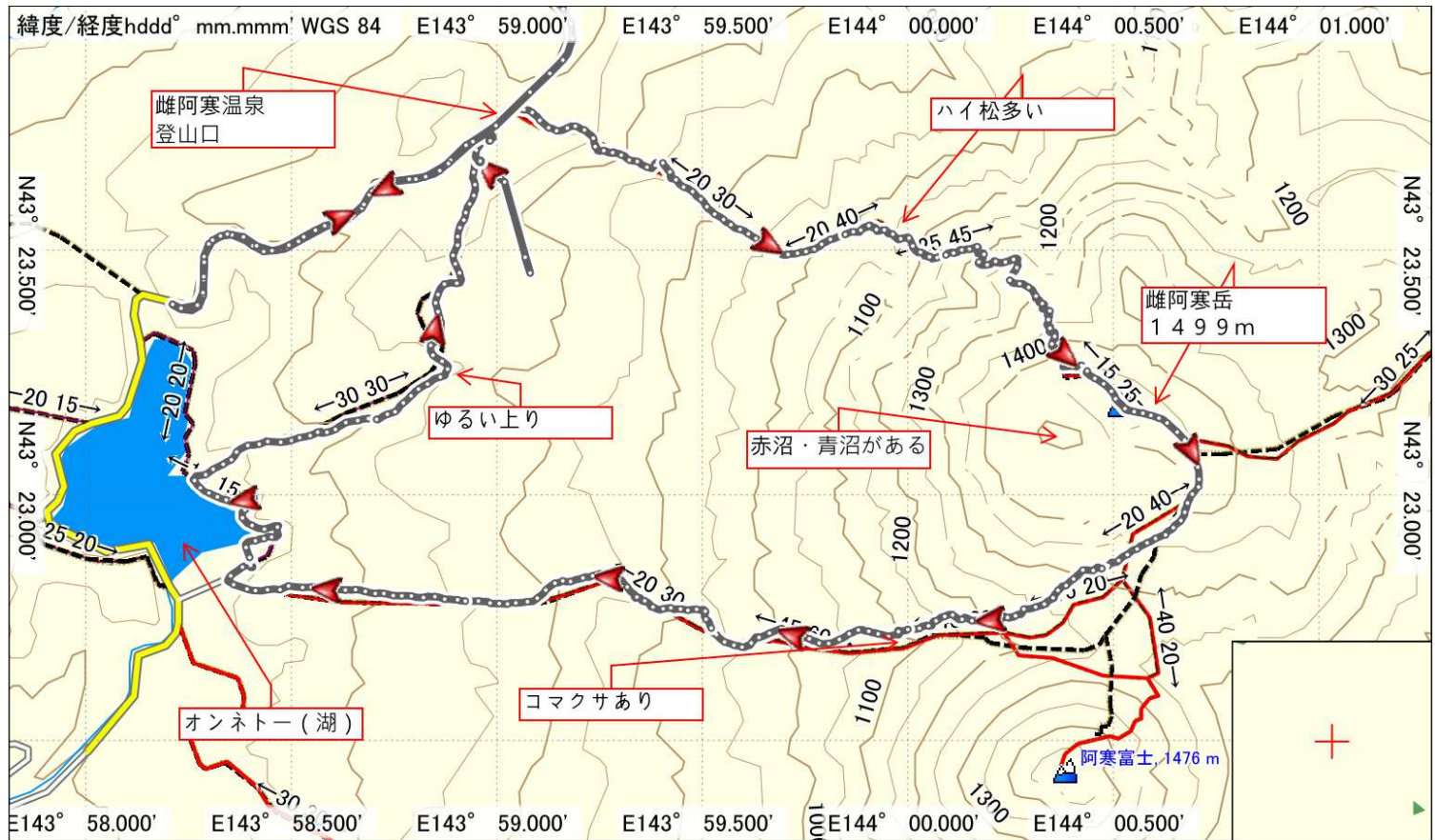
本当に話題作りの名人である。靴はまっ黄黄の泥んこ状態。自分で言うのも何だが、救い難い！今日はガスで何も頂上からの展望はなかったが、でもその変り、ガスがかかったから見えた露を含んだ花達の生き活きとした表情、耳だけで聞く異常なまでの噴気音、湿っていたからこそ埃がたたないザレ地の歩き、これはこれで良かった。

1回歩いただけでは山の良さはわからない。「2回目にもう一度チャレンジしろ！」と言う事なのだと思って満足できた雌阿寒岳であった。

(了)

その他の記述 (GT)

1. 雌阿寒は、29年ぶり二回目。記録を読むと、オンネトー・雄阿寒が見えたとあるが、赤沼・青沼が見えたか、全く記憶がない。
2. 野中温泉は350ー。内風呂熱い。露天はちょうど良い。広い休憩場があり利用できる。
3. 雌阿寒岳の下部は、ハイマツが多い。
4. この後、斜里岳に向かった。

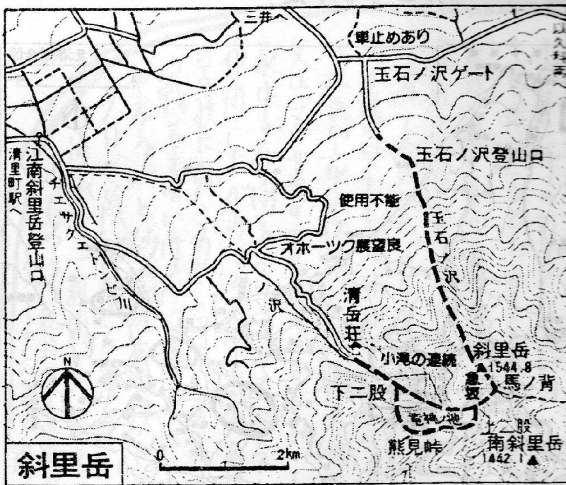


Japan Topo 10M Plus V3
 CanvasMaple Co., Ltd 2014
 Garmin Corporation 1995-2014

2019/07/22 15:20:35

GARMIN

山岳の道



いか。ウーン。何たる偶然。
登山道は清岳荘の前の一の沢を真っ直登って行く古典的なルートだった。途中、羽衣の滝、万丈の滝、七重の滝など、美しい滝がかかる。ところどころにフィックスロープもあり、部分的にデリケートなので子供、年配者では無理か

かもしれない。下りもちよつと厳しそうだ。しかし効率は良いのでクンケン稼ぐ。急登が終わり流れも少なくなると上二股で、上部は背の低い矮小化したタケカンバで一面被われていた。一見、カールの跡の感じもする。
年配の方と会い下降路について

情報交換したが、この方が中里さんだろうか。聞きそびれてしまった。(帰静後、電話で確認したところもつと若い方で、御存知のように入会してくれた)
馬ノ背のコルに達し一気に頂上を陥す。曇ってはいるが展望は良く、知床方面、オホツツク海、明日登る雌阿寒岳など見えた。南斜里岳が立派でとても1500m級とは思えず、南アの山にいるような錯覚を覚える。こ

れで雪が付いたら更に迫力が出るだろう。セルフタイマーで写真を撮り下山。帰りは、竜神ノ池を経由して熊見峠を越える。
車に戻り屈斜里湖めぐし、家族と合流した。

8月15日(くもり)

●雌阿寒岳登山

△タイム▽雌阿寒温泉登山口7:45
↑頂上10:05
↑登山口11:10
▽標高差1770m

今日もハッキリしない天気。女房、子供は阿寒湖でマリモ見学。車を飛ばして雌阿寒温泉へ。アカエゾマツ、トドマツの林を抜けるとハイマツがでる。オンネットの湖と雄阿寒が見える。途中で羅臼で会った女性と一緒に頂上まで行く。明後日は日高に登ると言っていた。写真を撮ってもらい下山。車で釧路に向かい再びブルトレで帰静した。いつかまた来たいと思った。